

第16号 2018年2月

里づくり



人に学び、
地域に学び、
今できることから始める。

CONTENTS

地域づくりリレーインタビュー

株式会社北海道フード工房 常務取締役 成田 靖大 さん

北海道里づくりアドバイザーレポート

鶴居村 水本 梨佳 さん

新任アドバイザー紹介

地域の生産者と連携した商品開発

ふる水指導員の小西さんと一緒に商品開発をされたと聞きました。その時の話を聞かせてください。



成田さんは生産者さんと連携した加工品づくりをされていますが、商品開発をするようになったきっかけはなんですか？

奈井江町の生産者さんのトマトがすごく美味しくて、その「桃太郎」という品種のトマトを使ったトマトジュースをつくったことが始まりでした。

その数年後、「岩見沢の「ふるみず」ふれあい店」という直売所で畑を歩くツアーなどに参加させていただいて、そのときにふる水指導員の小西さんや普及センターの職員さん、地元のリサイナーさんなど様々な方と知り合いました。そして、一緒にファーム体験というか、圃場を見せてもらったりするようになったり、何度か小西さんとの間に何かあるようになりました。

ある時、定山溪のあるホテルから「森マルシェ」をやりたいという話をいただいた。小西さんをお願いして野菜を卸してもらいました。マルシェをやっている時に、私が小西さんのトマト畑を歩いているとバジルを見つけた。「小西さん、これ何かに使えないかな？」というので、「これはトマトの虫除けに植えてるだけなんです」と。でも、すごく良い香りのするバジルだったので何かに使えないかなと相談していたら、定山溪のホテルの料理長から「せっかくならマルシェをやっているんだから私も何かしたい」というお話がある。子どもと一緒に料理をつくるイベントを開催しました。そのイベントの中で誕生したので、バジルソースです。そのバジルソースはすごく美味しくて本格的だったので、ここだけではもったいないと、商品開発をすることになりました。

最初は中小企業総合支援センターさんの地域ファンドで助成金をいただきましたがらやっています。

実際に商品開発となると、色んな課題を乗り越えなくてはなりません。衛生検査とか、賞味期限の設定とか、ものすごい数の課題があります。あとは、最低限の販路の確保が必要。私が東京に出て販路を探して、卸問屋さんから「これは美味しいから是非紹介したい」と言っていたら、首都圏の高級スーパーさんが扱ってくれることになりました。

その高級スーパーではお家ブランドとして大分のバジルを使ったバジルソースが既にありました。でも、大分のバジルって生産が安定してなくて欠品することがあるんですよね。その欠品した時にお店に並べるといって、置いていただけることになりました。

**東京の高級スーパーですか！
規模が大きそうですね。**

最初はうちもそんなに、言ってしまうと片手でつくってたんなんです。でも要求されたロットは非常に多かった。しかし、そこで「じゃあ無理です」と断る。「うちはいまこのくらいは量じゃないです。でも是非扱ってほしいです」とお

株式会社北海道フード工房 常務取締役
成田 靖大 さん

北海道札幌市出身。
商品開発をはじめたばかりの頃は、車で走っていた時に見たたまねぎの山にたまらず生産者さんのお家に突撃したという、熱いハートの持ち主。





(株) 北海道 フード工房

<会社情報>

- 所在地/札幌市中央区
南1条西20丁目1-6
コミュ120/1F
- TEL/
011-676-8206
- FAX/
011-676-8207
- 代表者/
代表取締役 成田和代
- 設立/
平成20年10月



道内の色々な生産者さんと関わって
いく中で商品開発をしていきたいとお
しゃっていた成田さん。

みなさまも商品開発、六次化で
お困りのことがあれば、御相談
にのってくださるそうです！

願っていたら、「バジルの生産が安定するまで、
全店舗じゃなく限定した店舗で扱いたいよ
う」ということで、少量（言っても多いで
すが）でも扱っていただけました。
しかし、当然数トン単位のバジルなんてすべ
には用意できません。でも、小西さんはなん
とかしめようとして、翌年から生産量を増やし
てくださいました。他にも、普及センターさ
んに協力してもらって地域の方々にもバジル
を生産してもらえるようお願いしたり、あの
ときは奮闘しましたね。
私も小西さんと一緒にバジルをつんでいた
ら、450の袋を600個に詰めても45
0kgくらいなんです。こんなにつんだのに
これだけーっと思っただ記憶があります。

**商品開発って、思っていた以上に大変
なんですね…。**

六次化をされている生産者さんはすごく多
いと思います。うちに相談もよくいたくださ
りますが、バジルの場合は、加工品になると
色々な悩みがでてきますね。

デザイン、ラベル、アレルギー表示、衛生検
査など…。ラベルについては、色ん
な書体で問い合わせなきゃいけないので、す
ごく大変だと思います。
あとは、生産者さんのこだわりが、消費者
の需要とマッチするかどうか…そういうこと
ころがうまくいけば流通に乗るんだろうなと
は思っています。

**課題を乗り越えていくためのコツは
ありますか？**

生産者さんと一緒に商品開発をする時、私
が一番最初に聞くのは【何の目的でやっ
てる】です。
最初は皆さん答えられませんけど、本音を
聞くと「副収入」「余ったものがもたない
から」「隣の〇〇さんがやっているから」など
がありました。あとは、純粋に「地域のため」
って方も。地域を活性化していくために、町
の特産品にするとかで。それぞれの理由に
よって、売り方も売場所、売量も変わっ

てくると思います。そこがわかっていると
私もアドバイスしやすいです。
でも実は、皆さんに絶対これという理由が
あるわけではないですね。色々な理由が混
合しているんです。「地域のためにもなっ
てほしいけど、副収入もほしい」とか。
でも、その中で一番の目標はなんですか？
そこは決めた方がいいと思います。目標や理
由に向かって進むことは活動を続ける活力に
なるし、そこを目標として歩きたいから、
目指す場所が決まっていれば、「最近集まれな
いね」「最近やる気が無いね」と時期が来
ても、初心に帰るということが出来ると思
います。

**生産者さんとのコミュニケーションの
コツはありますか？**

親しくしている種苗会社の方がいて、
その方が非常に生産者さんに詳しいので
色々ご紹介してもらっています。
ありがたいこと、生産者さんやその
関係の方から直接御相談いただくことも
ありますし、最初の頃は自分どうい
な思った方に電話していました。

うちもこうして10年以上やってきた
ので、このノウハウは色々な方に使っ
ていただきたいと思っています。みなさん
何かありましたら是非御相談ください。
**最後に、生産者のみなさんにアドバイス
などがあればお願いします。**
先ほどもお話ししましたが、「目的を決め
る」というのは重要です。それから、関係機
関の支援は最大限に利用してください。
これは自分たちでできることか、書類が
色々あって面倒とかあると思いますけ
ど、どんな利用していきましょう。後
は、「楽しんでやること」ですね。あな
まの売場と、緊張してはいるものの、
楽しんでやっていたら、それが一番なんです。

**成田さん、貴重なお話
ありがとうございました！**

北海道里づくりアドバイザーレポート



鶴居村 水本 梨佳（みずもと りか）さん

2013年 実家の酪農業を継ぐ
2017年 北海道ふるさと・水と土指導員



明るく、お茶目な水本さん♪

豊かな鶴居村

私の住んでいる鶴居村は、国の特別天然記念物であるタンチョウの飛来地として知られる自然豊かな所です。基幹産業は酪農で、地元の生乳で作られる特産品のチーズは数々のコンテストで賞を受賞するなど全国的にも高い評価を頂いております。

酪農を受け継ぐ

平成22年6月、私は酪農業である実家の跡を継ぐため故郷である鶴居村に帰ってきました。長年両親だけでやっていた入院し、このままでは今までの様には酪農を続けていくのは厳しいのではないかと状況になった事がきっかけでした。

当時私は道央の建設会社で営業・現場監督という全く異なる職業に就いていましたが、実家が酪農家でなくなるのは考えられず、私が帰る事で酪農を続けていく事が出来るならと会社を辞めて約20年振りに故郷へ戻りました。平成25年に父よりの経営移譲を受け経営者となりました。またまた両親に助けられているというのが現状ですが、子供の頃から当たり前のように見ていた「牛がいる風景」を守りたいという気持ちを忘れず、試行錯誤を繰り返しながら酪農と向き合っています。

自分が出来ること

現在はJ-Aくしろ丹頂女性部鶴居支部の一員として活動していますが、昨年まで在籍していた女性部の中でも若手メンバーの集まりであるフレッシュミズでは、釧路管内のみならず道・全国のエネルギッシュなフレッシュミズの仲間と出会う事が出来ました。発信力や行動力の高さ、地域との積極的なコミュニケーション等、それまで自己完結的だった私にはとても刺激的でした。そして戸惑つ私にかけて頂いた『自分が出来る事を出来る範囲で頑張ればいいんだよー』という言葉は今でも私を支えています。

帰ってきてしばらくは家と牛舎を往復するような毎日でしたが、元々何でもやってみたいと思う性格だった事もあ

り、現在は地元の様々な分野の活動に参加しています。

趣味らしい趣味がなかった私が最初に始めたのは『和太鼓』で、6年程前に丹頂群太鼓同好会というサークルのメンバーと知りあったのがきっかけでした。小学生から大人まで男女十数名で週1回練習を重ねながら、地元の文化祭やイベント・施設での催し物など年数回演奏させて頂いています。

その和太鼓で地元の文化祭に出演した事がきっかけで翌年から始めたのが『大正琴』です。練習日が違うから一度見学においてと誘われて藤朋流という流派の鶴居支部の練習に深く考えずに行っただけですが、結局そのまま入会する事になりました。不器用な私は最初は頭も体も混乱していましたが、顔見知りの方が多かったのと丁寧に指導して頂いたこともあり、徐々に演奏する事にも慣れていきました。こちらも毎年開催される流派の演奏会や地元でのイベント等年数回演奏させて頂いています。

さらに同じ酪農仲間から誘われて4年程前から始めたのが『七宝焼き』です。実は始めるまでどのようなものなのか全く知りませんでした。銅板に釉薬を乗せて窯で焼くというもので、アクセサリーから小物まで幅広いジャンルの作品を作っています。莢雷種焼き物サークルで月1回程度様々な技法にチャレンジしながら作品作りに励み、文化祭での展示や地元の宿泊施設や物産館で販売も

ついでに。

またまた、出来るじい

4年程前に新設された女性消防部にも参加させて頂いています。地元中学校の防災訓練炊き出し実習のお手伝いや、独居高齢者宅への防火査察等の他、昨年からの取り組んでいるのは地域の方を対象とした火災予防啓発活動です。一昨年に札幌で開催された女性消防団の全国大会に参加した際、各地の女性消防団が取り組んでいる様々な啓発活動を見て触発され、昨年初めて地元の保育園で火災予防の寸劇をやらせていただきました。家庭内で起こりうる子供達にもわかりやすい事例を取り上げ、衣装や舞台道具も皆で手作りしてドキドキしながら披露しましたが、大変好評で今年もまたやらせて頂く事になりました。今後は高年齢の方を対象にしたものも出来たらと盛々考えています。



昨年までの2年間は鶴居村の社会福祉協議会の理事も務めさせて頂きました。これまでほとんど関わることがなかった福祉という分野での活動に最初は戸惑いや不安がありました。子育て支援や高齢者福祉等今までどのように行われているのかわからなかった部分について色々学ぶことが出来ました。



独居高齢者の方を対象とした事業で交流イベント『ふれあい昼食会』や、ボランティアの方々配膳して下さったおせちを『自宅までお届けする』『年越しおせちの配達』は毎年楽しみにして下さっている方も多く、みなさんの笑顔に私達も元気を貰っています。社協の方は昨年で任期が終わりましたが、現在は共同募金運営委員会の一員として引き

続き携わっています。

その他、若者の会というグループでは秋に開催されるふるさと祭りの際の牧草ロール神輿や村のイベントでの出店・アトラクションのお手伝い等にも参加しています。

出会う中で

仕事の都合がつく範囲内で様々な活動に参加していく中で沢山の出会いや交流の機会がありました。今まで気付かなかった故郷の現状も垣間見る事が出来ました。平成の大合併以降市町村の過疎化が深刻化する中、鶴居村は30年程人口変動がほとんどないという珍しい自治体だそうです。村の移住促進計画で整備された分譲宅地造成区域に移住してくる方が増えている事がその要因であると思われます。とはいっても、基幹産業である酪農の後継者・働き手不足や住民・各団体の構成員の高齢化は例外なく進んでいます。私自身も後継者ではありませんが、未だ独身で自分の後継者は今の所いないというのが現状です。個々の力だけでなく、自治体や関係機関とも手を携えながら出来る限りの取り組みを地道に続けていく事が本当に大事だと思つ次第です。

4年程前から鶴居村に赴任している地域おこし協力隊の方の活動から、私達がこれまで当たり前だと感じていた鶴居村の風景や環境が実はとても素晴らしいという事に気付かされました。村外から移住して来られる方、鶴居村の魅力を体感するために観光等で訪れる方はもちろんのこと、鶴居村で生まれ育った若い力がここで暮らしたい！と思えるような故郷になっていくように、微力ではありますが自分が出来る事を出来る範囲で頑張っていこうと思います。



今年度、新たに6名が北海道ふるさと・水と土指導員に委嘱されました。



別海町
尾形 好枝さん

根室管内別海町で酪農業を営む傍ら、J A 中春別女性部及び別海町女性農薬士会に在籍し、男女共同参画等の活動や食農教育、別海町産の乳製品を使用したミルクレシピ等の作成を行っております。

指導員就任を機会に他の地域の活動を学んでいきたいと思えます。



鶴居村
水本 梨佳さん

昨年六月よりアドバイザーになりました。タンチヨウの飛来地でもある道東の鶴居村で酪農をしております。皆様との交流や活動を通して色々学ばせて頂き、地域活動にいかしていきたいと思っております。頑張りますので宜しくお願い致します。



津別町
佐野 多希子さん

オホーツク管内の津別町で主人と共に畑作農業を営んであります。雄大で美しい自然の中で暮らす幸せを感じながら、女性部活動やグリーンツーリズムを楽しんでいます。

今度は皆さんとの交流の中でその幸せを伝える事を学んでいきたいと思えます。

何も分かりませんが、よろしくお願ひします。



津別町
河本 純吾さん

津別町で農業をやっている河本農場・河本純吾と申します。

農業をやっている傍ら、「こども×しぜん×ものづくり」をコンセプトにした「ものそと研究所キッズクラブ」や農家民泊などいろいろやっています(笑)

「なんでも楽しむ!!」がモットーです(´▽`)



稚内市
菊池 工さん

昨年九月からアドバイザーになりました。かつて稚内市勇知地区で栽培されていたジャガイモを復活させようと、平成二十年市内有志で「わっかない勇知も研究会」を立ち上げ活動をしております。微力ながら地域のために頑張りますので宜しくお願いいたします。



浦河町
以西 明美さん

日高管内浦河町で道産小麦や地元産野菜などを使ったパン屋を営んでいます。季節感を大切に「小さいお子さんも安心して食べられるパンづくり」を心がけています。

創業100年を迎える映画館「大黒座」とともに、浦河の魅力を発信したいと思えます。

皆さん、これからどうぞよろしくお願いいたします!



平成29年度各研修開催結果

道東ブロック

日程：平成29年7月25日(火)～26日(水)

場所：別海町、厚岸町

出席：26名(指導員15名)

内容：ア 現地研修 NPO法人厚岸ネット理事長 竹田敏夫氏
堅展実業(株)厚岸蒸溜所長 立崎勝幸氏
べつかい乳業興社代表取締役専務 近岡一詩氏

イ 活動報告 水沼和子指導員、高橋美佐子指導員

ウ グループ討議

道央ブロック

日程：11月7日(火)～8日(水)

場所：日高町、平取町、浦河町

出席：17名(指導員9名)

内容 ア 講演 釣り堀仁世学園 代表 佐々 憲一氏
びらとり農協 理事 糸屋 新一郎氏

イ 活動報告 里平食楽力モミールの会

田中義光指導員、佐藤 剛指導員

中村勇市指導員、中川貢指導員



道北ブロック

日程：8月1日(月)～2日(火)

場所：留萌市、小平町

出席：18名(指導員9名)

内容：ア 現地研修 留萌市幌糠農業農村支援センター
農産物加工施設留萌市農林水産課 峨家知広氏

イ 特別講話 小平町地域おこし協力隊 新井田 政美氏

小平町地域おこし協力隊 麻生 雄司氏

(株)丸夕田中青果総括本部長 田中 美智子氏

ウ グループ討議

道南ブロック

日程：11月15日(水)～16日(木)

場所：北斗市、知内町

出席：18名(指導員9名)

内容：ア 施設見学 (有)緑友会六輪村代表取締役 東寺百合子氏

ニラ集荷施設 JA新はこだて知内支店 千葉 大輔氏

農産物加工わくわく工房 笠松悦子指導員

イ 活動報告 富樫一仁指導員

ウ 意見交換会



地域づくり研修会

日程：平成29年9月5日(火)

場所：札幌全日空ホテル 23F 白樺の間

出席：74名(指導員22名)

内容：① 基調講演

「タイ人から見た農村観光の魅力」

合同会社 StayLink

プーワナット・スパーブクン氏

② パネルディスカッション

「農村の魅力と観光需要を

結びつけるためには」

コーディネーター：

北海道大学院農学研究院 小林国之氏

パネリスト：*プーワナット・スパーブクン氏

* (有) 緑友会六輪村代表取締役

東寺百合子氏

* (株) いただきますカンパニー

代表取締役 井田英美子氏

* 鶴居村観光協会事務局長

服部政人氏

現地研修

日程：平成29年10月18日(水)

～19日(木)

場所：八雲町、江差町、厚沢部町

出席：25名(うち指導員15名)

内容：(八雲町) 味菜工房、八雲丘の駅訪問

(江差町) 江差海の駅、いにしえ街道

散策など

(厚沢部町) 厚沢部町河川資源保護

振興会の活動報告



全国研修

日程：12月12日(火)～13日(水)

場所：東京都渋谷区代々木国立オリンピック

記念青少年総合センター

内容：

① 講演 産経新聞社論説委員

大正大学客員教授 河合雅司氏

(一社) 持続可能な地域社会総合

研究所長 藤山 浩氏

② 事例紹介 * 島根県農林水産部

島根県土地改良事業団体連合会

* 富山県水見市

NPO法人速川活性化協議会

* 長崎県波佐見市

鬼木棚田協議会

③ 意見交換会



今年度も各研修会に御参加いただき、ありがとうございました。
来年度も実施しますので、指導員のみなさまの御参加をお願いいたします。



ふる水事業の新しいパンフレットができました！

ふる水事業って、なんだっけ？
指導員の目的って？などなど…

ふる水のことをこの一冊でまるわかり！
ぜひ地域みなさんに、ふる水事業をご周知ください。

